

奈良高専 生成 AI 対応ガイドライン

ver. 1.0 令和 5 年 1 2 月 1 2 日制定

1 はじめに

1.1 背景（避けられない生成 AI との共存）

生成 AI の中でも ChatGPT をはじめとする対話型生成 AI¹は、ユーザからの様々な問いかけに対して自然・流暢でもっともらしい返答が可能となってきました。その内容は実用的なものから雑談まで多岐に渡ります。対話型生成 AI をアシスタントと見なしたとき、主な操作は自然言語での要求（入力）のみであり、入力が曖昧であってもなんらかの情報（出力）が得られることから誰にでも使用しやすく、広範な入力内容への対応が可能であることから本校の教育・研究全般にも影響があると考えられます。具体的には、知的な作業の補助として利用し効率化するなどのポジティブな影響が考えられる反面、学生が課題等に対して乱用することで本来身につけて欲しいスキルが身につかないなどネガティブな影響も考えられます。

生成 AI は、上手く利用すれば強力なツールになることは確かですが、利用には留意すべき点がいくつかあります。今後はこの種の AI を活用できる力が求められていく見通しがあり、直接利用せずともアプリに組み込まれる等の形で生成 AI と接することが増えると想定されます。つまり、これからの時代ではリスクを回避しながら生成 AI と上手く共存していく必要があるということです。そのために、生成 AI の仕組みを理解し、様々な活用ができるベースを築いていくことが重要になります。

1.2 目的（ガイドライン作成の目的）

本ガイドラインでは、生成 AI に対する本校のポジションを明確にする[1]とともに、利用上の注意点等を整理することで、本校にかかわる全員が生成 AI への対応を誤らず、活用に向けて進んで行ける指針を示すことを目的とします。

¹ 入力が自然言語であり、特にターンテイキングでやり取りできるもの

ガイドラインは適宜修正されるものではありませんが、進歩の速い生成 AI 技術に対応させるために抽象度の高い記述に留めます。具体的な生成 AI の説明やノウハウは本稿では触れません。

2 生成 AI 対応の基本方針

本校における生成 AI への対応の基本方針は、生成 AI を知的活動の新しい道具と見なし、教育・研究への利用を積極的に試行することです。

教育目標として大きく変わる部分はありません。これまで同様に高等教育で必要とされる学生の学びを維持しながら、生成 AI が存在するこれからの時代をはっきりと意識して人材育成をすることが重要です。学生の皆さんは、各科目や取り組みにおいての学習目標をより一層意識して学生生活を送ってください。

3 生成 AI 利用へ向けての対応

3.1 生成 AI と上手く共存するための3つの達成目標

リスクを回避しながら生成 AI と上手く共存していくにあたって、本校にかかわる全員が達成すべき目標は次の3点です。これらの目標達成のために、個人および学校単位での取り組みが必要になってきます。

1. 情報モラルの向上

これまでに培ってきた情報モラルに加え、「生成 AI を正しく利用する態度」を新しく学ぶ必要があります。例えば、生成 AI による生成物の扱いについては世間でも議論が続いていますので、動向の注視が必要です。

2. 生成 AI の仕組みの理解

生成 AI に限らず、新たな“AI システム”を見たら、何をどのように実行しているかという観点で理解しようとするのが、過度な期待や悲観的な憶測に囚われずに済む方法です。例えば、生成 AI に「正しい」答えを期待するのは理解不足です。幸いにも様々な媒体・レベルでの解説を見つけることができます[3]。

3. 教育目標／学習目標の理解向上

教育／学習においてそれぞれの目標を明確にすることは重要です。生成 AI という

強力なツールが登場した今，立ち止まって見直す好機と捉えましょう．特に低学年の学生は，具体的な生成 AI の使い方よりも，一般的な言語能力や問題解決能力等を優先して学んでください．それらは長い目で見て，生成 AI を使いこなす力となるはずです．

3.2 学生への呼びかけ

学生諸君は学習目標の達成に向けて，以下のことに十分注意してください．

- 他のツールや情報源と同様に，AI を乱用することがないようにする
- 授業・課題で身につけるべきことを理解する

3.3 教職員への呼びかけ

教職員は以下のことに注意して，生成 AI の積極的利用への協力をお願いします．

- 学生の AI 利用を過度に制限することがないようにする
- 授業・課題ごとに AI 利用の可否を明確にしておく
- 授業・課題で身につけて欲しいことを説明する
- その他，後述の教員向け参考情報も参照のこと

4 教職員向けの参考情報

本節では生成 AI の積極的利用に対して前向きな教職員向けのチェックリストと，現行の課題等の見直しに際する観点を提供します．引用元を併せてご確認ください．

4.1 生成 AI の積極的利用時のチェックリスト[4]

- ☐ 利用規約[5]の遵守
- ☐ 生成系 AI の性質，使い方の事前指導
 - ☐ ファクトチェックの必要性（[1] 別紙 p. 3）
 - ☐ 個人情報等の入力への注意喚起（[1] 別紙 p. 3，[4] p. 12）

- 著作権侵害への注意喚起（[1] 別紙 p. 3）
- 最終的な責任の所在（自己責任）の確認
- 利用・引用のルールの説明（[1] 別紙 p. 2）
- 教育目標に沿った利用可否の判断（[1] 別紙 p. 2）
- 経済的負担への配慮²

4.2 課題等の見直し・変更の工夫[2]

生成 AI が誰でも利用可能であることを想定して課題等を設定する必要があります。具体的には、以下の観点で改めて見直してみましょう。

- 課題等で身につけて欲しいことは何か？に立ち戻る
 - 生成 AI の利用を制限するべきか否か
 - 生成 AI を利用することで高度化できないかどうか
 - 評価方法は妥当か
- その他の工夫を併せて検討する
 - 短い課題を授業中に課す
 - 解答に至るまでの過程を重視する
 - 課題に選択の余地を設ける（自らやりたいと思う課題を選ばせる）

5 おわりに（特に教職員の方々へ）

- 生成 AI と上手く共存するための3つの達成目標についての補足
- 「教育目標／学習目標の理解向上」は、低学年と高学年とで分けて考えること
- 活用のヒントは、“確率的に間違っても良いタスク”を代替させること

²経済的負担への配慮とは、例えば ChatGPT の無料版よりも有料版のほうが回答の質が良いことなどが関係する留意事項です。使用しているサービスの違い（特に有償無償の違い）が直接的に学生の評価に影響しないように注意が必要です。

生成 AI と上手く共存する達成目標へのアプローチとして様々な対応が考えられます。まず「情報モラルの向上」 ([4] p. 8) は、情報リテラシーの一項目として授業で扱うこともできますが、教職員についても同様に研修が必要になります。「仕組みの理解」についてはインターネット上の各種コンテンツ[3]をまずは参照いただきたいと思います。これらは何か一つの取り組みで完了というわけではなく、継続して効果的な方法を模索していく必要があります。具体的なノウハウについても蓄積してゆきたいところではありますが、進化が激しく陳腐化が速い技術周りのスピードに対して学校独自の対応は難しいと感じます。後述するように定期的に情報交換することが有効でしょう。

「教育目標／学習目標の理解向上」については、低学年³の学生に対しては、具体的な生成 AI の使い方よりも、一般的な言語能力や問題解決能力等を優先して学ばせることが重要です。一方、本科高学年、専攻科の科目での積極的利用に関しては、モデルケースの共有が進むことで浸透していくことが予想されますので、活発な情報共有をお願いしたいと思います。利用ケースは分野やシーン等によって多種多様にあることが考えられます。様々な立場にある教職員の方々に利用を検討していただきたいと思います。その際は個別に検討するだけでなく、周囲の興味のある方々で集まって生成 AI 利用や有効活用に関して議論していただけると有意義かと思います。

生成 AI 活用の一つのヒントは“確率的に間違っても良いタスク”を代替させることです。ここまで読まれて、“結局生成 AI ってなにができるの？”と感じている方がおられれば、ぜひご自身で使って確かめていただくことが何よりも近道です！Microsoft Bing Chat や Perplexity AI⁴などは登録不要ですぐに試すことができます。ただし、個人情報や要機密情報など機微な情報を入力しないように十分注意してください。生成 AI がある世界はまだまだ過渡期です。教育目標や評価の見直しで一時的に負担が増えることが予想されますが、振り返りの好機と捉えて、リスクを回避しながら生成 AI と上手く共存していくために様々なことを試していきましょう。

³ ChatGPT, Bing Chat は利用規約により、18 才未満の場合は保護者の同意が必要[4]

⁴ <https://www.perplexity.ai/>

6 参考文献

- [1] 大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて， 文部科学省高等教育局 専門教育課 大学教育・入試課， https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf， 2023/7/13.
- [2] AI ツールの授業における利用について (ver. 1.0)， 太田邦史， utelecon オンライン授業・Web 会議ポータルサイト@東京大学， <https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/docs/ai-tools-in-classes>， 2023/05/26.
- [3] ChatGPT・AI の教育関連情報まとめ， Lui Yoshida Lab， <https://edulab.t.u-tokyo.ac.jp/chatgpt-ai-resources/>， 2023/08/29.
- [4] 「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」の作成について， 文部科学省初等中等教育局長， https://www.mext.go.jp/content/20230704-mxt_shuukyo02-000003278_003.pdf， 2023/07/04， 2023/07/04.
- [5] チャット AI の利用に年齢制限はあるのか？ ChatGPT, Bing チャット, Bard の比較， AI-POPULA， <https://ai-popularizer.tech/chatai-agelimit/>， 2023-07-28.